

議事要旨

第18回改革推進会議

日 時 平成24年2月16日(木)

13:15～15:15

場 所 島根県職員会館 多目的ホール

○委員長 それでは、第18回の改革推進会議を開催させていただきます。

この会議は、毎回申し上げておりますが、県による財政健全化の取組みについて、実施状況をフォローアップしていくということが一つ、そして今後ともそういったことを通じて県の財政運営のあり方について意見を述べるといったような役割を果たしております。

本日の会議では、昨日公表された、平成24年度当初予算案の概要、それから今後の財政健全化の取組み方針(案)の骨子、これらにつきまして事務局の方から御説明を受けたいというふうに考えております。その後、意見交換をさせていただきたいと思います。知事さんもお見えの機会でございますので、ぜひとも忌憚のない御意見をたくさん賜りまして、会議としての役目を果たしていきたいというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

今申し上げましたが、知事さんからここでごあいさつをよろしくをお願いいたします。

○知事 開会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

皆様方にはお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

先ほど山本委員長からお話ございましたが、来年度の当初予算を昨日発表いたしましたので、今日、各紙で報道されております。来週の月曜からは2月議会が始まり、議会で審議をしていただくわけでございますが、その概要につきまして本日は御説明をさせていただきたいということと、この予算は、県の財政健全化の基本方針というのを平成19年度につくりまして、それに基づきながら毎年度の予算の編成を行うということとなっております。

財政の健全化につきましては、平成20、21、22、今年度までの4年間を集中改革期間といたしましていろんな健全化の対応をとってまいりまして、今のところ当初の見通し、基本方針に大体沿いながら健全化が進んでいるところでございます。

そういう中で、これは通常は行わないわけでございますけれども、職員の給与の特例減額というのを続けておりましたが、昨年の秋に人事委員会の勧告の中で特例減額の停止と同時に、地域給と申しますけれども、地域の給与の実態に合わせて給与を決める、あるいは

勧告をするということがありますが、その導入をあわせて行うという勧告が出まして、私どもとしては、これまでの財政健全化の実績、そしてこれからの見通しなども勘案しまして、人事委員会の勧告を取り入れ、実行するということにいたしましたわけでございます。

それから、来年度の当初予算につきましては、4点におきまして重点を置いて編成を行っております。昨年の大震災、原発の事故、あるいは風水害等がございまして、やはり県民の方々の安全・安心のために防災対策に重点を置くということが一つでございます。

それから、経済の状況、世界経済、日本経済含め、まだまだ変動があるわけでございますし、島根県として産業の振興を進めていかなければならない、あるいは経済対策も行っていくということをして2番目の柱としております。

3番目といたしまして、医療、福祉と教育の充実。

そして4番目といたしまして、島根の持てる資源を活用していくということです。その中で観光の資源というのは、島根にとって大事な活用しなければならない資源でありまして、古事記1300年を一つの契機といたしまして、「神々の国しまね」プロジェクトを推進しております。そういうことによりまして島根の魅力を県外などにも発信をしていく、そして地域のにぎわいを創出をするといった点に重点を置いているわけでございます。

当初予算は、全体で5,277億円でございます。23年度の当初予算と比較しますと0.9%、45億円の減でございます。債務の償還費を公債費と申すわけですが、近年の県債の発行の縮減等を反映しまして公債費がやや減少しておりますので、公債費を除く歳出を一般歳出と申しますが、一般歳出のベースでは0.1%、6億円の増と、ほぼ前年度並みの規模を確保しているといったようなところが特色でございます。

これから事務局の方におきまして説明をさせていただきますので、皆様方には予算並びに財政運営等々、忌憚のない御意見を賜れば幸いです。よろしくお願いいたしますので、よろしくお願い申し上げます。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、議事に入ります前に、本年度新たに委員に就任されまして、本日御出席をいただいております大谷委員、田中委員、西上委員より、一言ごあいさつをお願いしたいと思います。

それでは、大谷委員さんからよろしくお願いします。

○委員 初めまして。私は島根県商工会女性部連合会の女性部として参加させていただきました。

なかなか他の会議と一緒にあって、今まで出席することができませんでした。今日、初めて出席させていただきます。何もわかりませんので、今日、勉強させていただこうというつもりで参加させていただきました。よろしくお願いいたします。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、田中委員さん、よろしくお願いいたします。

○委員 失礼いたします。

私も今日、初めてでして、ちょうど金曜日の1時から講義が入っておりまして、初めてになってしまって申しわけございません。大学では経営学を専攻しておりまして、企業再生ですとか組織の変革を組織論の視点から分析しております。いろいろお役に立てるかどうかちょっとまだわからないところもあるんですけども、一生懸命させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、西上委員さん、お願いいたします。

○委員 海士町から来ました海士町教育委員会の西上です。よろしくお願いいたします。

今回初めての参加になります。今まで離島振興法の改正のアドバイザーを務めており、そっちの会議がたくさんあってなかなか来られませんでした。今日、初めて来て、こんなにたくさんの方がいるんだなと思いちょっとびっくりしました。前泊、後泊しないと海士町に帰れないので、いい意見が一つでも言えるように、ここで学ばせていただいたことを山内町長に報告したいなと思っています。

○委員長 ありがとうございます。

なお、本日、小川委員、熊谷委員、佐々木委員、高木委員、田部委員、錦織委員については、それぞれ御欠席でございますので、申し添えます。

それでは、議事の方に入りたいと思います。

次第の2番目でございますが、平成24年度当初予算（案）及び今後の財政健全化の取り組み方針（案）の骨子について、それぞれ事務局から説明を受けたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

〔事務局説明〕

○委員長 ただいま来年度予算並びに2月補正の予算案、そして健全化の見通しの取り組み方針の案について御説明いただきました。

それでは、冒頭申し上げましたように、どういった課題でも結構でございます。委員の

皆さんから御自由に御発言をいただきたいと思います。

○委員 3点ばかりになるかと思いますが、よろしく願いをいたしたいと思います。

東日本大震災についてです。しまね産業振興財団の中に「ものづくり産業復興支援島根県相談窓口」が、東日本大震災にかかわって設置されています。また、島根県でも、当分の間、県内での事業活動を支援するとしています。県内の工業団地等へ工場と従業員の方を丸ごと来ていただくというような施策はないのかお尋ねします。古事記1300年に合わせて多くの人々の来県が期待される場所ですが、出雲の神々と関わりのある神々は被災地にも多く存在しますので、積極的な支援を行いながら、来県を促すということも必要ではないかと考えます。

次に、古事記1300年事業についてです。出雲に関わる神社は全国に数多く散在しています。こうした関わりのあるところへ、出雲との関わりがわかるようにしながらの誘致対策を行うことが必要ではないかと考えますがご意見をいただきたい。

最後に、原子力発電所の防災、安全対策についてです。原発を中心に30kmの同心円を描き、その中で防災、安全対策を考えるということにこだわらず、様々な状況を勘案しながら、実効の上がる防災、安全対策を検討すべきではないかと考えますが、ご意見をいただきたい。

○財政課長 答えられる部分だけちょっとお答えいたします。

1番目のいわゆる被災企業支援、従業員も含めて丸ごと誘致するということにつきましては既に被災企業の事業継続支援ということで、今年度の段階から、例えば丸ごと企業、機械等も含めて来られる場合に、いわゆる空き工場に入ってくる場合の家賃助成をすとか、工場を操業する初期費用を支援するといったような制度も設けながら、受け入れの方の体制を行っているというのが一つございます。

○知事 企業を引っ越してもらおうというような感じになるわけですけども、誘致企業の特例を設けまして行ってまいりました。現状1社、出雲の団地にお入りになるというのがございます。そういう活動はいろいろやっております。

それから、観光の面でも、ゆかりのある地がたくさんありますので、神社関係など、いろいろな業界の方々に連絡、広報をやっていただこうというようなことを行っております。今のアイデアなんかもぜひ活用したいと思います。

それから、万が一の場合の原発事故の際の避難であります。30キロというのは一つのモデルとしてやっております。現実には避難をどうするかというのは、SPEEDIと

いう仕組みがございますので、そういうことも活用できるようにしているところでございます。30キロ圏内だけ避難すればいいということには現実いかないわけでありまして、そういう風向きなどを勘案しまして、30キロ圏外の自治体に関係するような場合にも対応できるようなことをやっていきたいと考えております。

○委員 私も3点ほど質問したいと思います。

一つは、給与の特例減額のことですが、地域給の導入が一方であって、あわせて実行するということだと思んですが、このペーパー上で、その地域給の導入とリンクしていることがわからないので、リンクして説明した方が、思いが伝わりやすいのではないかと思います。

2点目は、資料1の16ページ、農林水産の振興の上から2番目に、将来の農林水産を支える技術開発プロジェクトが新規で3,300万とございます。それで、商工労働部の20ページに県産品の販路拡大が3,300万のマイナスとあります。それで、前から思っていたのですが、特に農林水産関係の販路拡大というようなものは、つくることから売ることまで一貫した考え方に基づいて研究したり販売したりと、都会地へ持っていったり、山陰のブランドをつくったりということがいいと思いますし、長年の宿題ではあると思うんですが、その辺、両部で連携をとりながらももちろんしていらっしゃるとは思いますが、予算上一つになればいいのに、と思います。これまでも連携してやっていらっしゃることは重々承知してはいますが、その辺で余地はないのかと思います。

3番目は、神話博についてですが、私は以前、古代出雲文化展や「ねんリンピック」などの全体広報を担当させていただいたこともあるのですが、今回の神話博しまねについては、神話ですので形がないわけで、大変苦勞をされていると思います。それで、商工労働部をはじめ皆さん大変だと思いますけれども、先ほども説明がありましたようにいろんな仕掛けがしてあって、特に県民が参加しやすい工夫がされていて、県民参加の立場から考えても、非常にいいなと思います。今後これを、キャッチコピーの「はじまりの物語」のように、今後、神話博が終わってもずっと続くような、継続的な予算措置をお願いしたいと思います。

○知事 最初の特例減額と地域給を関連して説明した方がわかりやすいんじゃないかということでもあります。形式上は、人事委員会の勧告におきまして特例減額の廃止と地域給の導入というのがセットで勧告をされているということでございます。

それから、地域給の導入というのは、人事委員会として毎年出す勧告の中の一部を構成

するものでございます。地域給につきましては、今までも人事委員会は、勧告ではなくて報告という形で導入したらどうかとしてきました。しかし、特例減額を行っているので、特例減額の一部に、地域給が含まれてるから、その分は勧告に入れなかったのです。今回、特例減額を停止をするということになりますから、地域給を入れて、本俸の部分を地域の実態に合わせるという意味でリンクになっているわけですが、人事委員会の勧告を別として、地域給を導入するから特例減額を廃止をするというダイレクトな関係にはないわけですが、そこら辺の微妙なところがございまして、あまりダイレクトなリンクとは申せませんが、人事委員会の勧告を踏まえて、地域給の導入とあわせ特例減額も廃止をするとしております。そのため「中期的な財政の見通しも勘案しながら決めました」というような、ややこしい説明になっているわけですが、もう少しいい説明ぶりがあるのか、もうちょっと考えてみたいと思うんですけども、なかなか難しい問題だと思いますね。

地域給につきましては、ほかの県でも導入しておりますけども、数字上は地域給になってなくて、大体国と同じような県が多いわけですが、地域給の導入と同時に本俸が下がるというのは、比較的少ないケースじゃないかというふうに考えております。

それから、財政見通しとの関連でいいますと、地域給というのはそういう意味で引き下げになっておりますから、島根県の場合は、効果が中期的、長期的に続くということがございます。特例減額は、いずれにしてもいつかの時点でやめなければいけないというふうには我々は考えておりましたから、地域給による引き下げによる効果なども勘案をすると財政見通しの中に実は入ってきているわけでありまして、そういうことで特例減額をこの際やめましたと、こういうことになります。

それから、いろんな考え方はありますけども、やはり公務員の争議権に対する制約から、国において人事院の制度があり、地方において人事委員会の制度があるわけですが、基本的には、やはりこの部分はそうした枠組みが変わらない限り尊重をしていく必要があるというふうには考えているところであります。

それから、農産品のPRの関係ですが、おっしゃるように流通の段階、生産の段階、よく協調するように、連携するようにやってまいりたいと思います。ここで16ページと20ページに分かれておりますのは、16ページは大体生産段階での工夫、20ページはフェアに出すとか流通段階での経費が中心になっているという若干の違いがあるかと思えます。

○委員 来年度の予算の枠組みということで、ポイントが4つぐらいあるという御説明をいただきました。その中で、引き続きいろんな形で経済に関係のある施策についても力を入れておられるということだと理解をしました。たしか前回でしたか、同じような財政規模の他県との比較で見ても、島根県の場合はそういったところに力を入れているということであったかと思えます。

その中で、やはり中・長期的な財政の枠組みを考えながら、その範囲内でやっていくということもまた必要なことだと考えます。お金があるにこしたことはないわけですが、出せるお金も限界がある。その中で、例えば企業誘致であるとか、あるいは観光であるとか、そういったことでこれまでも県の方ではいろんな施策を打ってこられて、県外ともいろんな接触をされて、相当情報というか、経験というか、ノウハウというか、そういうものが蓄積をされてきているのではないかなと思っています。そういったものをインフォメーションセンターとか、データベースとか、そういう形で活用することによって、県外と県内とのいろんな交流の触媒になっていく、いわば、頭は使うけれども、体とかお金は余り使わなくてもいいというようなことにも引き続き力を入れてやっていかれるといいのではないかと感じました。

○委員 私は、財政とかそういうのは詳しくありませんが、ハードとソフト、どっちにたくさん島根県はお金がついていますか。

○財政課長 明確にハードが幾ら、ソフトが幾らという分類はしていませんが、予算の金額的には、やはりハードというのはお金がかかるものですので、額としては間違いなくハードの関係のものが多いいかなというふうに思います。ただ、それぞれ中身の質の問題もございしますので、当然ながら福祉、教育といったソフトについても相当強化しておりますので、絶対的な金額だけでははかれない部分があるのかなと思っています。

○委員 ハードをいっぱいつくると借金が膨らんだりとか、維持するので大変というふうに伺っております。ぱっと見ただけですけど、ハードの方にすごい予算がついていますね。

島根県は人口減少最先端の地域だと私は海士町にいて思っています。離島だから余計にそう思っているんですが、海士町の場合、ソフトにつけたお金をどうやって知恵を絞ってうまく使うかということに、常にみんなが知恵を絞ることを惜しまないという環境になっています。どっちにお金がついている方がいいかというわけではありませんが、ソフトにある程度お金をかけて、知恵を絞って最先端だからできる何かに取り組んでいくべきじゃないかなと思います。例えば県庁職員の給料カットをされてきましたよね。海士町も給料

カットをずっとしてきました。給料カットだけじゃなくって、海士町の場合は、日本で一番安い給料で、「ほかの市町村職員がうらやむ働き方をどうやって実現するか」ということを、給料カットとセットで考えています。他市町村の職員が、うらやむ働き方というのは、一つ「いつも知恵をしぼり」、二つ「いつも一生懸命で」、三つ「時代にあわせて新しいものを取り入れていこう」の3点に集約されます。そういう何か県庁内で、他県の職員がうらやむ働き方をどうするかみたいなことは考えられたことはありますか。

○総務部長 働きやすい職場づくりという一般論ではありますけれども、一つあるとすれば、なるべく、県庁という大きな組織で、個別個別の具体事例はなかなか申し上げられないにして、若手の職員の方の意見を吸い上げられるような体制をつくっています。一般的に言えば風通しのいい職場というとなかなかつまらない表現ですが、今回予算案の大きな柱であります、例えば定住対策でございますとか、新エネルギー対策でございますとか、例えば医師確保の人材育成なんかについて、若手のプロジェクトチームというようなのを作りまして、知事の前で政策提言をして、それを予算案に大分盛り込んでおります。そういう意味では、なかなか市町村のように対人的なサービスというようなものは県の業務は少ないわけでございますけれども、現場を見ながらいろいろな意味で知恵を出して、それが政策ということで実現するような形でやりがいを見つけていただくというようなことには、今回予算編成の中でも大分配慮をしたというのが一つあると思います。

○委員 もう一つ気になっていることがあります。Uターンが少ないから何か策をとりたいというのが書いてありますが、雑誌、若い人の雑誌をご覧になったことはありますか。最近の雑誌は、地方特集をすると、売り切れるんです。海士町もよく雑誌に載せていただくんですが、例えば群馬とか栃木とかそういうところは、人の生き生きとした写真プラスすてきなカフェとかレストランとか、何か格好いい暮らし方をしている人の家が必ずセットで紙面に載るんですよ。海士町を載せていただくと人しか載らないんですね。載せるぐらいのクオリティーのすてきな場所とか、すてきなライフスタイルとか、職業の中身を見せられる人までいないと痛感しています。いろいろな写真は撮ってもらえるんだけど、結局紙面になったときに、海士町は人の顔ばかりが載って、中身まで載らない。そこで私たちは、集落支援員でもあるので、集落支援員全員で古道具屋さんを始めたんです。高齢者の方は、自分たちで机とか家具を処分できないので、私たちが無料で引き取って、昭和の香り漂うものをきれいにすると、若い人たちがアンティークだといってすごい買ってくれるんですよ。やっぱり離島でもすてきな暮らしとか格好いい場所をつくりたいと思って

いる人はたくさんいるということがわかりました。集落支援員の古道具屋さんは、1カ月20万くらいの純利益があります。

なので、格好いいものとかそういうのに囲まれて暮らしたいというふうに思っている人は、多分島根にもたくさんいる。いるけど、それをうまくコーディネートする人とか、それ発掘してくる人とかが増えたらいいなと思っています。もっと言うと定住促進をやっている人がすてきな感じじゃないと、シャカシャカにトレーナーみたいな人が「島根来てくださいよ」って言っても、よし行こうって思わないのと同じで、「えっ、この人島根の人なの？」って思うような人が来てくださいとか、島根にはこんなにすてきなところがあるんですよって紹介できるようになると、「よし行こう」、「見に行こう」となり、見に来てくれると、それが「ちょっと住んでみたいなあ」に変わるのではないかと考えています。いつも何かその一歩が足りない気がしています。島根のガイドブックを並べてみたらわかるんですけど、ほかの県のガイドブックとやっぱりちょっと違うんですよ。なので、何かそのもう一歩を踏み出すために、やっぱり他県がうらやむ職員ってどうあったらいいのかとか、「よし行こう」っていう踏み出す素敵さやかっこよさをみんなでつくっていくにはどうしたらいいのかなという、話し合いの場や実践の場が、必要ではないかと思います。そういう場があれば、前後泊しても構いませんので参加したいです。

○知事 その点は我々も考えねばいかんこととして、さっき総務部長が申し上げましたけれども、若い人にIターン、Uターンを勧めるためにどうしたらいいかというんで、いろんな調査をしてくれまして、その中で、今言ったように島根にIターン、Uターンをするとどういう生活が待っているのか、どういった人たちが生きているのか、楽しんでおられるのかという情報をたくさん流さないでだめだと考えておりまして、100人ぐらいの島根のUターン、Iターンした人たちの生活や環境なんかを聞こうということを考えております。委員の御意見も参考にさせていただきます。

○知事 資料1の14ページに書いてありますけれども、14ページの(5)の定住促進のところに、UIターン者の体験談等をまとめて情報発信するなど定住情報の提供の強化というのがございます。委員の意見も入れてもらうようにしましょう。

○委員 今御説明いただいたところで、特に来年度の予算ですね、非常に厳しい財政状況の中で、そういう意味では広く目配りをされている予算ではないかなというふうに思います。

それで、その前提になる財政見通しのところで、前回、大きく2つのケースを想定する

と。それで、昨年末の国の情勢等を踏まえて、実質的にはケース1の方という、前回の、いわゆるやや楽観的なケースという形なんですけれども、こちらに落ちついているというところでありました。もしできましたら、ケース1の方に落ちつきましたところの背景をもう少し御説明をいただければ、より今回の予算への理解が深まるのかな思っているのが1点でございます。

それと、今、知事をはじめ、県挙げて観光振興を進めておられて、これは県の産業自体が大きく依存できる産業がないという状況の中で、これからの人口減少をとらえると、やはり観光に、注力されるというのは非常に大事なところだと思っております。

さらに一つ言えば、人口減少というのは、観光するお客様、宿泊もやはりこれからの趨勢としては減っていくというような事情があると思います。すなわち国内の観光客というのは、やはりこれから減っていくというのをある程度前提に考えていかなきゃいけないと思います。当面のところはまだ団塊の世代の方々が、年金もある程度入って、あちこち行かれるというところはあると思うんですけれども、そういう方々が70代ぐらいに入ってくると、一気にその辺の動きというのが落ちていくというのが実情でございますので、国内だけに依存するというのはやはり厳しいのかなと。もちろん今、予算の方にも計上されておられますけれども、やはりそういう意味でインバウンドには引き続き注力をいただくといいますか、県として振興するというスタンスをぜひお示しをいただければと考えております。

実際のところ、観光の業者の皆様、観光事業者の人たちは、どうしてもインバウンドについては、島根県に限らず、ネガティブな印象がやはり強いと思います。やっぱりそういうところを少しでも緩和していくというようなところで、先ほどの話ともちよっとかぶってしまうかもしれませんが、媒介役としてぜひそこを進めていただきたいなというふうに思っています。

○財政課長 1点目の、前回の財政見通しについて大きい2つのパターンを示していて、ケース1の方に決めた経緯なり判断の仕方ということでございます。

もし前回の資料を持っておられたらなんですけど、前回2つのパターンの中では、大きく経済成長率と、それからもう一つは、本県の場合、非常に国の地方財政対策というのに大きく依存してるものですから、年末の国の予算、とりわけ地方交付税というものがどうなるのかという、その2つの条件設定で場合分けをしておりました。

地方交付税については、大幅な減額というのが危惧をされたんですが、結果的に全国の

地方交付税というのが前年の同額か若干増という格好で国の予算額が確保されました。これに伴うところでケース1とケース2ということで、どれだけの減額率が来るかということで設定をしておりましたが、大幅な減額はないであろうということで判断をし、ケース1としました。ケース1の場合でも、一定程度の減というものを見込んでいたのですが、現実はこの間の国の方の情報等を勘案して予算を立ててみますと、ケース1の見通しの中でやっていけるということでございます。

あと、国の方でも、おおむね3カ年の中期財政戦略ということの中で、地方の一般財源についてケース1を押ししていくというふうなことがございましたので、そういうことの中で、当面、この2年を経過監視期間という位置づけることで、おおむねケース1の見通しということでやっていけるであろうということで、ケース1で財政見通しを決めさせていただいたということでございます。

○委員 財政健全化の取組みにつきまして、本当に大きな成果が上がっておりますし、グラフで見ましても、将来も本当に期待される。その中で、本当に職員の賃金のカットとか、それから人員削減など、身を切るようなことをやっておられて敬意を表するところでございます。

私は、質問ではなくて、ちょっと御意見だけということで話させていただきますが、一つは、私も関連するんですが、再生可能エネルギーのことにつきまして、資料1の9ページに書いてございましたが、一番最後のところに産学官連携によるバイオマスボイラー等の共同研究の実施ということでございます。島根にはたくさん山があるし、荒れているから、これをやれば一石二鳥、三鳥ということで、大変ロマンチックで美しい発想で、いろんなところが取り組んでおりますが、我が社も関連しましたけど、これは経営上は難しいところがありまして、うちもその工事をして、結局金が一銭ももらえなかったというような、補助金は出されるけれど、その肝心の経営者がつぶれてしまうようなことがあります。だから、これについては、共同研究とともに経営と地域の供給、均一なチップをいかに供給するかというような、経営の問題も絡めた研究にさせていただければ進むんじゃないかなというふうに思っています。将来的にはバイオマスというのは非常に大事じゃないかなというふうに思いますので、これを実施されるところの経営主体、地域の長でもよろしいですが、本当に経営的にやっていけるのかという指導をしていただきたいというふうに思っております。

それからもう一つ、これは資料1の25ページの教育の充実のところでは高校生のキャリ

ア教育の推進ということがあります。今、県内就職というのは、やはり雇用の確保というのが、Iターン、Uターンよりも先だと思います。今の企業見学というものとか、学校との進路主事の先生との交流とかによって行われておりますけど、もっと高校生の就職される方に直接的に企業の方から、企業の方が高校に乗り込んで行って高校生に直接話しかけて、県内就職のメリットとか、Uターンした場合と初めから県内に就職した場合でどういう違いがあるのかということとか、働くこととか、社会人への心構えとかいうのを、夏休みに企業の者が学校へ行ってやるというようにしてはどうでしょうか。どうも高校の先生と交流していると、就職人数とかそういうところにばかり視点がいくもので、就職する生徒に、地元に残れというようなことを企業が熱く働きかける場を組んだ方が私はいいなと感じているところでございます。

それと、工業高校さんはいいんですが、進学校がございませう。松江にも北とか南とか、それから浜田は浜田高校とか、出雲は出雲高校とか、進学校さんで就職される方というのは、本当、例えば生徒の95%ぐらいが大学進学で、あと5%ぐらいがちょっとスポイルされるんですね。そういう進学校の生徒さんで、県内で高校卒で就職したいという人は、進学校の生徒さんだけでも集めて企業とのコミュニケーションをとっておかないと、学校の先生は東大へ何人入ったとか早稲田へ何人入ったとか、そういうことが進学校では大事なことだということで、就職される5%、7%の方がちょっと就職が難しい現状があります。そういう指導が本当に真剣になされているのか、私は、実感しておりますので、進学校の生徒さんは進学校の生徒さんだけ全部集めて、石見と出雲と、隠岐も含んで、それでそこへ企業が乗り込んで、県内就職してくださいと呼びかけができるようにしたらどうかというふうに思います。これを参考意見として聞いていただきたいと思っております。

最後に一つですが、観光のことではございますが、古事記1300年ということで、大成功すればいいと思っておりますが、一方で伊勢の方でも同じ古事記1300年をやっておりますが、伊勢と何か連携がとれないものかと、私もなるべく早い段階で伊勢の方へ行って勉強してこようかなと思ってるんですが、県の方でも伊勢とは連携をとっておられるようでしたら教えていただきたいです。

○知事 最初の御意見の方は、関係部局によくお伝えをしておきます。

最後の古事記1300年の関連で伊勢ですね、実は古事記1300年に関連しまして、私どもも関係の深い、あるいは深そうな県とは連絡を取り合っております。宮崎県は高天原ということ、それからお隣の鳥取県は因幡の白兔あり、いろいろ関係がございませう。そ

して、奈良県は平城京1300年の後、私どもは奈良県の試みを参考とさせていただいた
というようなことがございまして、奈良県の方は、この前、東京でそういう関係県に声を
かけましてシンポジウムと説明会をやりまして、私も参りました。それから、その中で三
重県も天照大神の伊勢神宮ということで、伊勢神宮は来年は20年に1回の遷宮になりま
して、出雲大社の60年に1回の遷宮とも一緒になりますので、そういう面でも連携をし
ております。あと福井県ですね。福井県の方は歴史時代に入ってまいりますけども、この
古事記の世界に、随分出てきたりしております、そういうところと連携しながら、例え
ば旅行のツアーをつくってもらおうとか、いろいろ連携をやったり、あるいはPRなんかも
いろいろ協力してやっていこうというようなことをやっているところでございます。

県の方は、大体県の観光の部署と連携をしておると、こういうことでございます。もし
何かございましたら、事務局の方にお伝えいただければ連絡等できると思います。

○財政課長 私の方から、2番目の高校生の職業意識を醸成するキャリア教育のことにつ
いての御意見があったんですが、今まで、いわゆる専門高校の高校生のみを対象として、
いろんな企業見学ですとかインターンシップをやっていたのですが、24年度からは普通
高校にまで拡充をいたしまして、仮に普通高校からそのまま県内に就職する、あるいは仮
に一度県外の大学に行ってもまた戻ってくるような格好で普通高校にまで拡充をして県内
企業のよさを見てもらおうと、いったような取組みを進めていくということで考えている
ところでございます。

○知事 委員長、神話博のガイドブックができておりますので、ご覧いただければと思
います。

表紙にありますように7月の21日から11月の11日まで、夏休みが始まるころか
ら神在月が始まるころのようですが、114日間行います。

4ページをご覧くださいますと、左のページに、左の奥の方に、出雲大社があつて、隣に
茶色い屋根の古代出雲歴史博物館があつて、そしてその前に神話映像館というのがあつて、
それからしまね魅力発信ステージとかがありまして、ここが一つの会場になっております。
出雲大社は古くから伝わる神社そのものでありまして、古代出雲歴史博物館は荒神谷だ
とか加茂岩倉の銅剣とか銅鉾だとか銅鐸、あるいは出雲大社の平安時代の大きな柱ですね、
そういうものがあつたり、古代の世界の遺物を見ることができます。

神話の世界は、これは物がなかなかないんで、それは映像ということで、右にございま
すね。そこで縦3メートル、横15メートルの映像で見ていただくというようなことを考

えております。古代歴史博物館は、子供たちについては、興味ある子もいますが、なかなか難しかったりしますんで、入場料はタダしまして、映像館を見た後、大人はまたそういう銅剣だとかを見られる中で、子供たちもそういうものに触れるとかを計画をしているということでもあります。

そのほかの各地の、8ページにその周辺の地図がございます。出雲大社、そして神門通り、稲佐の浜、いろいろありますし、それから、後のページの方には各地の関連した観光地の、あるいは古代の世界をほうふつとするようないろいろな場所が説明をしてあります。こういうものを各地でお配りして誘客をしているところでございます。

○委員長 それでは、委員さんのいろんな御意見に、知事さんからも大変丁寧に答えていただいたんですが、終わるに当たりまして、一言もし御感想でもございましたらお願いいたします。

○知事 引き続き財政健全化の努力を行っていかなければなりませんので、この改革推進会議の皆さんにおかれましては、年に何回かこういう会合を開かせていただきまして、状況を説明したり、皆様方の御意見などもまたちょうだいいたしたいと思っております。よろしくお願いを申し上げます。

○委員長 それでは、以上で本日の会議を終了させていただきたいと思っておりますが、次回以降の会議につきましては、また事務局の方から日程調整をしていただくということになるかと思っております。現在のところは未定でございますので、知事さんがおっしゃったように引き続きということでございますので、どうぞよろしくお願いをいたします。本日はありがとうございました。